

## 〔資料紹介〕

## 記念センター所蔵寄贈資料目録⑧

東亜同文書院大学記念センター研究員 武井 義和

今回は、主に2013年度に東亜同文書院大学記念センター（以下、「記念センター」と略）に寄贈された資料を中心に紹介する。

まず、2013年1月、すなわち2012年度になるが、**一般財団法人霞山会**より近衛文麿院長・東亜同文会会長の招見式写真が寄贈された。1930（昭和5）年、1939年、1940年、年代不明の合計4枚であり保存状態はかなり良い（写真1）。

2013年度に入り、福岡市在住の**手嶋明子氏**が記念センターを訪問し、東亜同文書院院長を務めた大内暢三（1874～1944年）の書を寄贈された。手嶋氏は大内暢三の遠縁に当たる方で、ご実家に保管されていた大内の書を記念センターへ寄贈するために、名古屋へいらっしゃった際にご来訪頂いたものである。書は「松風明月 丙子夏日 白城山人」と記されており、「大内暢三」、そして彼の雅号である「白城」の2つの落款も押されている。「丙子」は1936（昭和11）年に当たることから、同年夏に書かれたものであることが分かる（写真2）。

**奥村英雄氏**よりご尊父の書院28期生・奥村栄氏が写る写真5枚が、ゼロックスコピーの形で寄贈された（写真3）。奥村氏は大連一中出身で満鉄派遣生として東亜同文書院に入学、満鉄では調査畑を歩むが、日本敗戦後は8年間留用されるという経験を持つ。帰国後は愛知県経済研究所勤務を経て札幌大学経済学部長、1970（昭和45）年から愛知学院大学商学部教授を務めた人物である。1995（平成7）年に東海・北陸地方で放映されたNHK名古屋放送センター制作番組「上海・幻の名門校」で証言者の1人とし

て登場している(1)。満鉄派遣生の集合写真は極めて珍しく、書院生について研究する上で重要な資料である。また、あわせて寄贈頂いた写真は、書院生の授業以外の生活の一端を知ることができるものである。

**本多庸子氏**からは、ご尊父の書院21期生・橋本博氏に関する資料を寄贈頂いた。『在支記念写真』とタイトルが付けられた写真帳は、中国各地の様子を撮影した写真が収録されており、日本語の解説が付いている。おそらく、日本人への土産物として販売されていたものであり、橋本氏が日本人経営の土産物店で購入したものではないかと推察される。

また、寄せ書きは1963（昭和38）年に京都で開催された同期生の同窓会を記念したものである。書院生の絆が戦後も強かったことは有名であるがそれを示す資料と位置付けられる（写真4）。

**有森茂生氏**からは、宗方小太郎書や近衛文麿の名前がある寄せ書き、杉浦重剛関係資料、青森県弘前市の貞昌寺にある山田良政碑の拓本、東亜同文書院工業科廃止記念写真、日清貿易研究所の学費受領証などをはじめ、多数の資料を寄贈頂いた。紙幅の関係上、その中の一部を取り上げる。

杉浦重剛関係資料は、杉浦石膏胸像（写真5）や大津市教育会が発行した杉浦重剛宅跡の絵はがきなどである。石膏胸像は表に「杉浦重剛先生像」、裏に「杉浦重剛顕彰会 昭和酉年」と刻まれている。「昭和酉年」は1933（昭和8）年にあたることから、その年の制作と分かる。絵はがきは3枚1組であり、大正末か昭和初期に出され

たものと思われる。

山田良政碑の拓本はいつ作成されたものか不明だが、状態からはかなり以前のものである感じが感じられる。この碑は弘前出身で孫文の革命支援者となった山田良政を記念して1919(大正8)年10月に建立されたもので、孫文が追悼文を揮毫したものである。現在は、弟で同じく孫文の支援者として中国革命に深く関わった純三郎の記念碑(1976〔昭和51〕年建立)と並んで、弘前市にある貞昌寺の境内に建っている。記念センターには、純三郎記念碑の拓本(何応欽撰、蒋介石題辞)が展示されているが、それとともに山田兄弟と中国革命との深い関わりを示す貴重な資料である。

1920(大正9)年に撮影された東亜同文書院工業科廃止記念集合写真は、同年に廃止が決定され、1922年に正式廃止となった工業科の教員とその家族が写る記念写真である(写真6)。工業科は1914年に「農工科」として東亜同文書院に設置され、1919年に改名したが、書院の経営母体である東亜同文会が第一次大戦後に財政難に陥ったため、1920年に廃止決定、2年後正式廃止という経緯をたどり、短期間しか存在しなかった(2)。したがって、その教師陣と家族の集合写真は極めて珍しい。

また、日清貿易研究所の学費受領証は、同研究所自体の資料がほとんど確認されない中で、現存する貴重なものである(写真7)。これははがき形式であるが、同研究所より大阪市在住の島田恒栄という人物に宛てたもので、学生武藤岩彦の1891(明治24)年9～11月分の学費39円を受領した旨記されている。この点について1891年当時の日本国内の専門学校と比較した場合、例えば東京専門学校は修学年限3年で各学科の年間授業料は19円、慶應義塾大学部は同じく修学年限3年で入社金3円に加え、学科の年間授業料は30円だったので(3)、日清貿易研究所の学費の高さを知ることができるとともに、同研究所の実態を知る上で大きな手掛かりとなる。島田は武藤の親戚か支援者だったと推察されるが、熊本県出身の武藤は1908年時点ですでに死亡していたため(4)、卒業後の足取りは不

明である。

有森氏からは1月と2月にも資料が寄贈されているが、それらは『同文書院記念報』Vol.21に掲載してあるので、そちらをご覧ください。また、佐藤安之助『満蒙問題を中心とする日支関係』(日本評論社、1931年)をはじめとする複数の図書類も頂いたことも、この場をお借りして申し上げます。

**本多直二郎氏**からは、ご尊父の書院28期生・祥三氏に関する資料が寄贈された。祥三氏は満洲国吉林省参事官、同江県副知事などを歴任し、戦後は教員生活を過ごした人物である。直二郎氏によれば、敗戦を見込んだ祥三氏が妻を出産のために帰国させ、その間に貴重な満洲関係資料を持ち帰らせたものであるという。それらは戦後、祥三氏の蔵書となっていたそうだが、図書や報告書類あわせて70点近くにのぼる。副参事就昇進記念の盾飾り2点(写真8)とあわせて、満洲国に関する貴重な資料である。

**青柳一壽氏と宅野真理氏**からは、豊田理化学研究所の鈴木重子氏と記念センターにお越しになった際に、書院22期生・三野清雄氏のご遺族・前田由利氏が所蔵されていた3冊のアルバムを寄贈頂いた。卒業アルバムをはじめ、三野氏の中学生から書院入学後に至る時期の写真を多く貼り付けたアルバム、戦後に開催された22期生の同窓会全国大会にあわせて制作されたと思われる『記念写真帳』である(写真9)。書院生の生涯をこれらのアルバムを通してたどることができるという点で、非常に興味深い。

三野清雄氏は青島中学出身、東亜同文書院卒業後に上海瀛華洋行へ就職したが、病気で帰国。中国産牛肉の輸入商を自営業したが戦災に遭い、戦後改めて精肉販売業を展開した人物である(4)。

これらのアルバムが寄贈されるに至った経緯について、青柳氏から詳細にご教示頂いた内容を簡単に記すと、建築に関する仕事に従事しておられる青柳氏と、同氏の恩師で宅野氏の親戚にもあたる**山口勝治氏**が、2012年に神戸で開催されたフォーラムでパネル展示した際、偶然にも隣が女性建築家・**前田由利氏**のブースであ

り、言葉を交わしたことがきっかけであった。山口氏はご自身が研究されている、戦前の上海でも活躍した建築家・平野勇造について、また青柳氏のご自身が小岩井淨東亜同文書院教授の親戚筋であるということについての話もおよんだことから、前田氏から記念センターへの寄贈のご意志が示されたそうである。

その後、まずは山口氏がアルバムを預かりコピー作業がなされ、作業終了後に前田氏とお住まいが近い宅野氏宅に移され、宅野氏を通じて前田氏に意志確認が行われた結果、最終的に記念センターに寄贈されるに至ったものである。なお、戦前に幼少期を上海で過ごされた**雑賀氏**が、前田氏にアルバムの希少価値を説いて下さったことも大きく作用したそうである。これらのアルバムが記念センターに到着するまでに、こうした多くの方の様々なご縁が介在していたことは、誠に驚きの念を禁じえない。前田氏はじめ、記念センターへのアルバム寄贈に関わられた皆様にお礼申し上げます。

また、今年度多くの資料を寄贈して下さいました全ての方々に厚くお礼申し上げます。

#### 注:

- (1)奥村栄氏の経歴は『東亜同文書院大学史』530頁(滬友会、1982年)。また、奥村氏がNHK番組「上海・幻の名門校」で語った内容は、『東亜同文書院大学と愛知大学』第3集、74～75頁(六甲出版、1995年)に活字として記されている。
- (2)農工科の誕生から終焉までは前掲『東亜同文書院大学史』109頁、武井義和「東亜同文書院農工科の実像についての一考察」(『中国研究月報』第65巻7号、2011年)を参照。
- (3)黒川安治編述『東京遊学案内』86頁・127頁(1891年、少年園発行)、ただし国立国会図書館近代デジタルライブラリー。
- (4)『沿革史』62頁(東亜同文書院学友会、1908年)。
- (5)前掲『東亜同文書院大学史』493頁。

#### 【凡例】

- (1)以前に寄贈頂いた方の資料番号は、通し番号として登録している。
- (2)歴史的な人物に位置付けられる人名については、本文ならびにリストでは敬称略となっている。
- (3)「寄贈年月日」は資料が寄贈された日、もしくは記念センターに到着した日を示している。

2013年度寄贈資料目録

No	日付	内 容	寄贈者氏名	寄贈年月日
36	36-60	雑誌『歴史写真』に掲載印刷写真。孫文死去時の孫文霊柩への吊拝写真	有森茂生氏(以下同じ)	2013年4月5日
	36-61	東北義園管理規則、燕京大校図		2013年4月5日
	36-62	中華民国国民政府組織系統および重要職員表		2013年4月5日
	36-63	中華民国政局一覧表。1911～1931年を年表形式でまとめたもの		2013年4月5日
	36-64	中華民国略図		2013年4月5日
	36-65	宗方小太郎掛軸書		2013年4月5日
	36-66	「杉浦重剛先生宅趾絵葉書」大津市教育委員会。※3枚の絵はがき。 ①杉浦重剛肖像写真、②杉浦旧宅、③杉浦筆の漢詩		2013年4月5日
	36-67	絵はがき(上海商務印書館発行、「湖北軍政府紅樓大門」とタイトルあり。 辛亥革命期の写真。ただし復刻版か)		2013年5月13日
	36-68	清国軍兵士の上着		2013年5月13日
	36-69	近衛文麿らの名がある色紙		2013年9月
	36-70	杉浦重剛の書簡封筒(封筒のみ)		2013年9月
	36-71	杉浦重剛の石膏胸像		2013年12月
	36-72	山田良政碑拓本		2013年12月
	36-73	東亜同文書院農工科廃止記念写真		2014年1月
	36-74	1990年代の上海地図		2014年1月
	36-75	日清貿易研究所の学費領収通知はがき		2014年2月13日
	36-76	1940年代？ 劇団焔座上演の劇「荒尾精」(大林清作、国民新劇場)のちらし		2014年2月27日
45	45-3	丙子夏日(1936年夏)	手嶋明子氏	2013年4月10日
56	56-1	大内暢三書「松風明月 丙子夏日 白城山人」 近衛文麿が写っている招見式写真4枚 ①1930年招見式、②1939年招見式、③1940年招見式、④年代不明	一般財団法人霞山会	2013年1月
57	57-1	【※ご尊父・奥村栄氏(28期生)に関する写真計5枚】 ①満鉄派遣生集合写真、②満鉄上海所長の子供たちとの写真2枚、 ③奥村栄氏写真2枚	奥村英雄氏	2013年5月
58	58-1	【※ご尊父・橋本博氏(21期生)に関する資料2点】 ①『在支記念写真』(写真帳)、 ②1963年の「全国念巻会」寄せ書き色紙	本多庸子氏	2013年6月10日
59	59-1	①ご尊父・本田祥三氏(28期生)の満洲国副参事昇進記念の盾飾り2点 【本田氏蔵書】満洲時代の図書・資料など70点余	本田直二郎氏	2013年9月
60	60-1	【※22期生・三野清雄氏に関するアルバム3点】 ①書院時代の写真アルバム、②書院卒業アルバム、 ③記念写真帳(上海東亜同文書院第22期卒業生全国大会)	前田由利氏(青柳一壽氏、 宅野真理氏継由)	2013年9月





写真1 近衛文麿院長・東亞同文会会長の招見式写真(1930年)

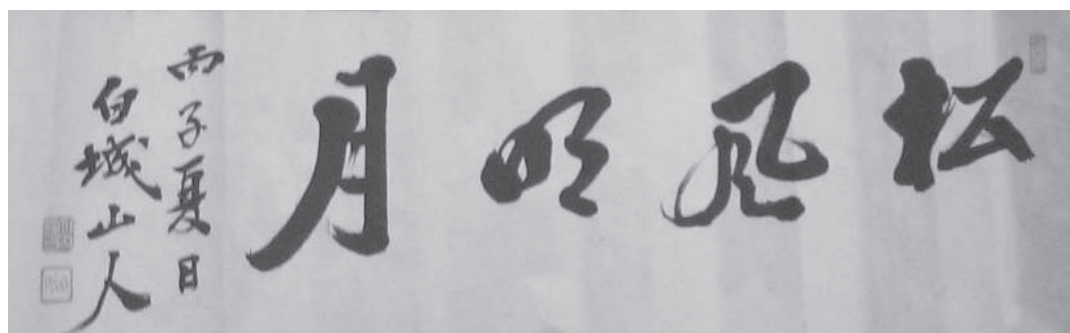


写真2 大内暢三書(1936年)



写真3 奥村栄氏と満鉄派遣生たち

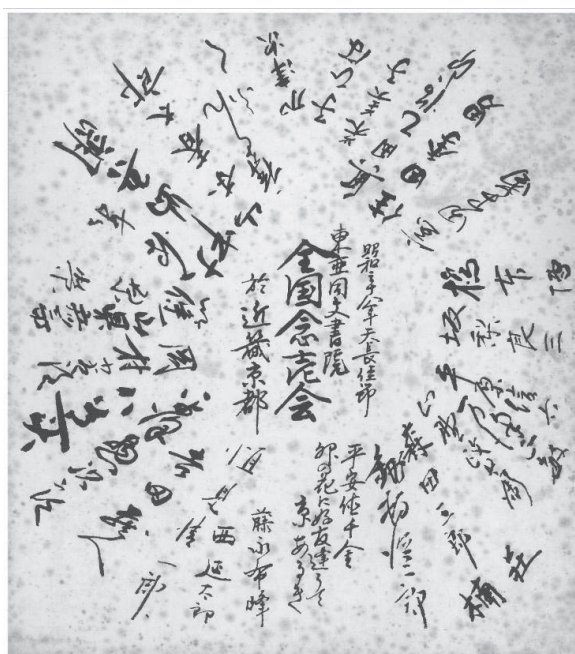


写真4 同窓会の寄せ書き色紙(1963年)

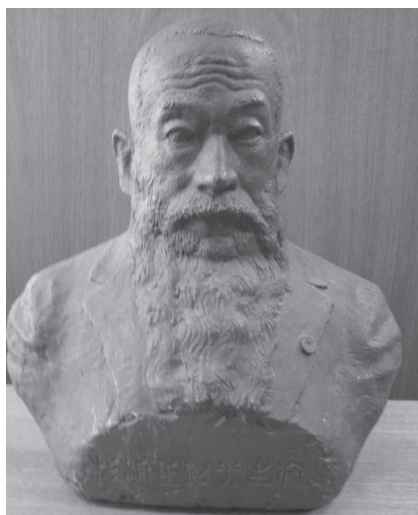


写真5 杉浦重剛石膏胸像



写真6 東亜同文書院工業科廃止記念写真

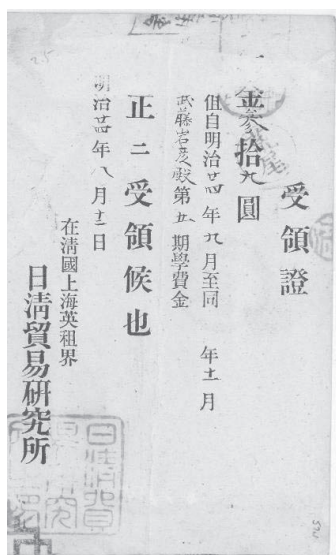


写真7 日清貿易研究所の受領証





写真8 本田祥三氏に贈られた盾飾り

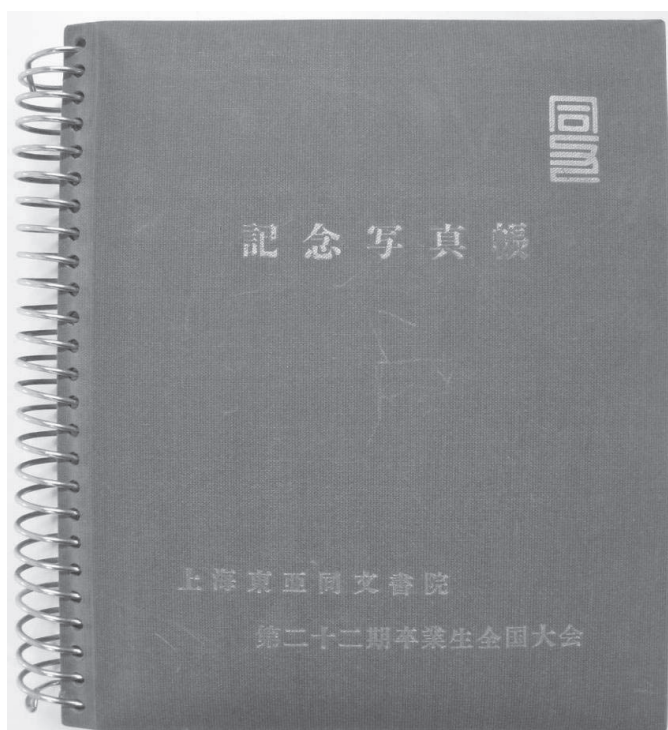


写真9 書院22期生・三野清雄氏が所蔵していたアルバムの一部